

# 清水家通信

## ぴかぴかの一年生

ランドセルも買った。学習机も買った。でも、本当にそれを背中にしよって、そして、椅子に座って勉強をする日が来るなんていうことは、入学式の日まで現実感がなくて、信じられなかった、そんな気がする。

小学校の入学式は四月八日(月)に挙行された。幼稚園の卒業式に続いて、天気予報は曇り。一時は雨も、という予報であったが、式が行われた午前中は汗ばむほどの天気にも恵まれた。

ついこの間、真っ赤な顔をして産声を上げていた子が、あっという間に一年生が、お母さんは、七年前にお腹を痛めて息子を生んだときの事をきつと思いついてるだろう。

お父さんは、自分と同じ小学校へ通学する息子の姿を、自分の姿と重ね合わせていた。

息子のクラスは一年一組。お父さんの時代は四つあったクラスも、今は二クラスだけ。担任の先生は駒木先生。



幼稚園ですつと女の先生の担任だったので、男の先生にちよつとだけがつかりしたようなことも言っていたけど、それも小学校に入学した証拠。元気にこれからの六年間を過ごしてほしいものである。

編集長が清水家通信を発売したのが平成十四年。三号を発売したところまでは、順調だったが、四号を手がけた途中で仕事に追われ休刊状態。息子が夏休みの宿題で壁新聞を手がけた事に刺激され、私は無謀にも清水家通信の副編集長を名乗り出した。

**無謀？副編集長に名乗り**

いつまで続くかは定かでないが、ネタには事欠かない清水家(どこかで聞いたフ

発行所 清水家通信本社

編集長 清水(夫)  
副編集長 清水(妻)

<http://hopepage2.nifty.com/atHomeShimizu>  
購読のお申し込みはこちらへ

mega.shimizu@nifty.ne.jp

### 息子9歳の誕生日迎える



七月二十二日、息子は九歳の誕生日をむかえた。祖父母を自宅に招

き、お寿司とケーキでお祝い。父の日や、母の日に思考を凝らした音楽のプレゼントをしてもらったので、我々両親からも

レーズ)。月刊とまではいかなくとも、季刊くらいなら何とかするのはないかという甘い考えで、四号発刊に向け編集長が手がけた入学の記事も掲載し、今日発刊を迎える。



「私が立て直す」と、張り切る副編集長。

「Kino」の『未来』という歌をプレゼント。「泣きそつになつちやつたけど、おばあちゃん達が居たから我慢しちゃつた」という頼もしい言葉が、我々の胸を打った。

昨年までと違い友人関係も広がり、友達の家を歩き来ることが増え、習い事に、遊びに、充実した日々を送っている息子。

これからも、たくましく育つて欲しいものである。



### 夏の恒例 プチ花火大会

八月十五日、自宅前で毎年行なうプチ花火大会が今年も催された。

この日は、叔父と、従妹の親子も遊びに来ていて、祖母に焼肉屋で盛大にご馳走になったあと、にぎやかにそれは行なわれた。

今年は、自分で吹上げ花火にライターを使って点火をするなど、息子が「男」になる一場面もあった。

へつり腰でライターを持つ息子に、「やれる！」と背中を押す父の声。

点火されて勢良く吹き



### 息子もご主人様？

今年の夏休み、息子はリブリーとジョナのイサ係をかつて出た。

忙しい朝の時間、息子が二匹の面倒を見てくれるのは正直とても助かる。三年生にもなると、「お手伝い」が、足手まといではなく本当に「お手伝い」になる。

でも、それ以上のおまげがこの「イサ係」には付いてきた。

それは、リブリーの息子に対する意識変化である。

上げる花火を見つめる息子の顔は、少し誇らしげに微笑んでいた。

でも、火遊びは絶対にしてはダメですよ！



これまでの、リブリーと息子の上下関係は同等もしくははちよい下で息子が下位。息子が「リブリー！」と声を掛けても、少し冷めた目で二度三度シッポを振って我々「ご主人様」の手前、泣々相手をしてあげるといった感じだった。

ところが、「イサ係」が始まってからというもの、ご飯の時間が近づくとリブリーは部屋を歩き来る息子の一挙手一投足を、熱い眼差しで追い続ける。その目の輝きとカッコいいおすわりといったら、すばらしいものである。イサの魔力は恐ろしい。



リブリーと息子の上下関係が完全に逆転した瞬間だった。

息子自身も、イサを与えることで可愛さが増し、以前よりもリブリーを可愛がるようになった。

心中穏やかでないのは、「息子命！」、「息子第一の子分」ジョナであろう。

姉リブリーにやきもち光線をバチバチ放ちながら、今日もジョナは息子とリブリーの間に割り込んでい